『球面調和函数と群の表現』野村隆昭著，第 1 刷（2018 年 7 月 25 日）正誤表

ご指摘くださった方々にお礼を申し上げます．
空欄になっている場合の追加日は 181221 です．

修正箇所		修正前	修正後	追加日
p. 2	問題 1.1.4 の文章	として V が表される	が全空間 V に一致する	
p. 22	問題 2.3.8 の 2 行目	連続函数である	連続である	
p. 32	例 2.6.6 の下から 3 行目	$\lim_{t\to t_0}$	$\lim_{t\to t_0-0}$	
p. 39	注意 3.2.4 から上に 3 行目	$\boldsymbol{B}(\mathsf{X},\mathbb{C})$	$\boldsymbol{B}(\mathsf{X},\mathbb{K})$	
p. 46	4 行目	実際に内積	内積	
p. 72	本文最下行	$g' = gH$	$g' \in gH$	190108
p. 104	下から 4 行目	補題 5.2.1 (2) により，互換の	補題 5.1.2 (2) と式 (5.3) により，隣接互換の	
p. 108	定義 7.1.1 の 1 行目	$\{h\|_{S^{n-1}}\ ;\ \mathscr{H}_k\}$	$\{h\|_{S^{n-1}}\ ;\ h\in\mathscr{H}_k\}$	190314
p. 123	問題 7.4.11	Gegenbauer の多項式	Gegenbauer 多項式	
p. 145	定理 9.3.8 の証明 1 行目	$I(R_a f) = f$	$I(R_a f) = I(f)$	
p. 151	式 (9.4)	$T(g)f(x)$	$T(g)f(u)$	
p. 164	定理 9.6.15 の 1 行目		$\omega \in C_b(G/\!/K)$ の直後に $(\omega \neq 0)$ を挿入．	190707
p. 164	①の左辺	$\Phi_\omega(f^\sharp * g^\sharp) - \Phi_\omega(f^\sharp)\Phi_\omega(g^\sharp)$	$\chi_\omega(f^\sharp * g^\sharp) - \chi_\omega(f^\sharp)\chi_\omega(g^\sharp)$	190707
p. 164	①の直後の 2 行	$f, g \in C_b(G/\!/K)$ と …… 証明が終わる．	(1) を仮定すると①の左辺は 0 であるから，(2) が成り立つ． (2) を仮定して $f, g \in C_c(G/\!/K)$ とすると，①より $\chi_\omega(f * g)$ $= \chi_\omega(f)\chi_\omega(g)$ を得て，(1) が成り立つ．	190707
p. 182	下から 2 行目の式の中辺と右辺		X は S の，Y は T の誤りです．	

p. 221	下から 2 行目	$U(\tilde{g})f$	$U_{\lambda}(\tilde{g})f$	190916
p. 248	下から 7 行目	$(\boldsymbol{x}, \boldsymbol{y} \in \mathbb{R}^n)$	$(\boldsymbol{x}, \boldsymbol{y} \in \mathbb{R}^n, t \in \mathbb{R})$	190707
p. 248	下から 2 行目	$Sp(V)$ の元	$Sp(V)$ の部分群	190707

文献に関する補遺

［52］ 2nd Ed. 2016 が出ていました．本書の本文で引用している箇所は変わっていません．
［148］ 雑誌の略称は，Int. J. Math. & Math. Sci. というように，& を入れるようです．
［191］ 2018 年に出版されました（受理されたときは，2019 年の 1 巻か 2 巻だと連絡されたのですが）．Kyushu J. Math., **72** (2018), 423–427.

追加文献（著書）

1. 森本光夫，球面上の超函数，上智大学講究録，**12** (1982).
2. E. Kaniuth and K. F. Taylor, Induced Representations of Locally Compact Groups, Cambridge University Press, Cambridge, 2013.
3. N. R. Wallach, Harmonic Analysis on Homogeneous Spaces (2nd Ed.), Dover, 2018.

追加文献（論文）

1. J. Hilgert, Reproducing kernels in representation theory, Contemporary Math., **468** (2008), 1–98.
2. M. Wüstner, A connected Lie group equals the square of the exponential image, J. Lie Theory, **13** (2003), 307–309. (added 190123)